

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

	事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
文化事業	<p>(事業名) 竜丘市民大学講座 (期 日) 第1講 10/30(日) 参加人数 22名 第2講 2/17(金) 参加人数 50名 《生涯学習の推進》</p>	<p>竜丘を学び今後の地域づくりに生かしていくことを目的に開催。 地区内の企業のものづくりと地域とのつながりを考える機会として、また企業から見た竜丘や、地域に向けた情報発信、事業者や起業家から若者へのメッセージ発信の機会としたい。 第1講 講師:(有)システムリサーチ 代表取締役 牧ノ内保夫氏、山京インテック(株) 代表取締役 中村拓実氏 第2講 講師:若木屋製菓(有) 代表取締役 小木曾俊氏、旭松食品(株) 取締役兼研究所長 村澤久司氏</p>	<p>昨年度、水辺の楽校及び文化祭でミナト光学工業(株)さんに参加いただいたことをきっかけに、地区内の企業活動についても「丘のみちしるべ」の学習の一環として捉えた。 メインテーマを「竜丘のモノづくり」とし、竜丘の産業って何だろう?の問いかけで呼びかけ、第1講は中学生の参加を期待して日曜日の午前中の設定したが、中学校教諭4名のみで中学生の参加は無かった。第2講では32名の中学生が参加した。全体の参加者が少なかったのも反省事項であるが、竜丘で起業した両企業のモノづくりへの思い、地域への思いなど普段聞けない話を聞けて、大変有意義であった。</p>
文化事業	<p>ふるさとコンサート (期 日)7/18(祝) (参加人数)200名 《文化の伝承と充実》</p>	<p>普段ふれる機会の少ない、生のクラシック音楽にふれる機会として開催した。一流の音楽家による演奏を気楽に楽しむ。 小学校のPTAと連携をとり開催。竜丘コーラスによる歓迎セレモニー、緑ヶ丘中学校吹奏楽部とのジョイントコンサートも実施。</p>	<p>トランペット五重奏団 トロンペテリアによる公演が行われた。 今までは弦楽器、木管楽器のアンサンブルが多かったが、今年は金管楽器の中でトランペット群のアンサンブルを迎えることができた。金管楽器の花形のアンサンブルは小中学生にとっても良い機会になったと思う。演奏家の方々からも、聞く方々のマナー、雰囲気がとてもよく、演奏しやすかったという感想をいただいた。交流会も短時間ではあったが、野楽路の皆さんによる郷土料理の振る舞いも好評だった。</p>
文化事業	<p>いいだ人形劇フェスタ 竜丘地区公演 (対 象)子ども一般 (期 日)8/2~8/7 (会 場)8会場 (参加人数) 2123名 《文化の伝承と充実》</p>	<p>竜丘地区内で17劇団による14公演を実施。竜丘公民館では、例年通り、木曜日の公演と、金曜日の「竜丘マラソン公演」を行い、終日人形劇を楽しめる環境を作った。 各分館では交流会も実施し、劇人との交流を通して「人形劇のまち飯田」を知り、その意味を考える良い機会となっている。</p>	<p>竜丘公民館でのマラソン公演は、分館公演にプロ劇団を充てるために、多くのアマチュア劇団を受け入れる役割も担っていたが、市全体の公演数が増えたため、プロ劇団を充てられない分館ができてしまった。 市全体の動きと連動しており、現状の仕組みでは改善が見込めないため、マラソン公演の在り方を見直し、より質の高い『竜丘の人形劇フェスタ』を模索したい。 ボランティアの活躍もあり、運営が行えている。今後もお願いしたい。</p>

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

	事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
文化事業	竜丘地区文化祭 (期 日)11/5(土)、 6(日) (会 場)竜丘公民館 (参加人数)1000名 《生涯学習の推進》 《文化の伝承と充実》	(1)地区内団体、グループ、個人が日頃の活動の現状や成果を発表、交流する。 (2)地域における文化活動を活発化させ、地区民の親睦を図る。 (3)公民館と参加団体による実行委員会を組織して企画、運営にあたる。	各分館の展示ブースについては、各分館が独自色を出して、調査・研究結果を発表していた。改めて地域を学ぶ機会になっている。 特別企画展として、市民大学講座の今年のテーマに合わせて、企業の展示ブースを設け、7社の展示をすることができ、広く見学者に見てもらうことができた。 2日間とも晴天に恵まれ、多くの方が訪れた。野外ステージの発表時には特に入場者が集中し、駐車場の渋滞ができたため、急遽竜丘保育園の園庭を開放していただき、対応することができた。 強風により、テントの舞い上がり防止に追われ、トンボ玉づくりはテントをたたみ急遽屋内で実施した。次年度は初めから風の影響のないエリアへの割り当てなど検討が必要。
文化事業	成人式 (期日)1/8(日) (会場)竜丘公民館 (参加人数)155名	(1)地域を担う若者たちのために、鈴岡太鼓の演奏、野楽路さん、おいしんぼプラザさんの料理、長野原煙火会の皆さんの花火など、地域をあげて愛情をこめて成人式を祝う。 (2)新成人自身が社会的自覚を持ち、また地域に対する理解と愛着を持てる交流の場とする。 (3)実行委員会を組織し、新成人自ら企画運営に携わり、成人式を通じて、地域を知り、地域へ参画する第一歩となることを期待して行う。	第1回の実行委員会から、男性3名、女性1名の4人が参加してくれて、記念誌づくり、緑ヶ丘中学校学区の恩師のビデオ撮影とほぼスケジュール通りに進めることができた。 当日は、おいしんぼプラザの手作りの料理や、野楽路の手打ちそばの振舞いを受け、また大雪の中準備していただいた長野原煙火会の祝いの花火を見ることができ、新成人の皆さんの良い思い出になったと思う。 祝賀会では、乾杯後10分間動かずに同じテーブルの来賓、地区役員の方々との交流も持てることができた。新成人は少しおとなしかった印象もありますが、秩序ある式ができたと思う。
文化事業	第22回ニューイヤーコンサート (期 日)1/22(日) (会 場)竜丘公民館 (参加人数)800名 《生涯学習の推進》 《文化の伝承と充実》	大人から子どもまで楽しめる、身近な音楽の催しとして実施。 竜丘在住のメンバーを中心とした音楽グループに呼びかけ、音楽をベースにした新年の交流の場とする。	毎年若干、出演団体が替わり、竜丘地区で音楽・文化活動をする団体の重要な発表の場としての位置づけとなっている。出演団体は昨年より1団体減り、16団体であった。 今回は竜丘小学校から、児童有志による合唱と、伊那谷文化芸術祭に参加している金管バンドが参加し、保護者をはじめとして、昨年よりも多くの方が鑑賞された。 プログラムも、保育園や小中学校の出演を振り分けたことで、観客数の変動が少なくなるよう調整した。 ステージの準備がスムーズだったことと、演奏時間が予定より短かったこともあり、前半は予定より早く進行したが、休憩時間で調整した。 各団体からの申告時間をなるべく正確に申告していただくようにし、スムーズな進行につなげていきたい。

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

	事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
体育事業	夏季スポーツ大会 (期 日)5/22(日) (参加人数)150人 《スポーツ振興》	日頃の運動不足解消と地域住民の交流の場を提供し、誰もが気軽に体を動かし親睦を深める事を目的としてペタンクマスターズを実施。 各分館から3人1組で10チーム、年代別のチーム編成とし、分館対抗での競技とした。 空きスペースに練習用コート进行設けいつでも練習出来る環境とした。 今年は各分館より1名以上参加いただいてグランドゴルフを実施し、ニュースポーツの推進を図った。	年代に関係なく幅広い年齢層での競技となり、親睦を深める事業として定着してきている。相互審判とすることで、対戦相手との会話も自然と増え、交流の場としても良い大会となった。 昨年の反省を踏まえて、休憩時間を長くとったが、当日の気温が高く、午前中開催を検討した方が良いという意見が挙がった。 ペタンクを長年行ってきたが、今後他の種目も検討した方が良いのではとの意見も挙がった。
体育事業	3地区合同バレーボール大会 (期 日)11/20(日) 《スポーツ振興》	竜丘バレーボール連盟他 竜丘より2チーム参加	竜丘からは2チームが参加し、8チームによる2つのリーグ戦を開催。 開催時期の調整が毎年難しいが、緑ヶ丘中学校区の良い交流機会となっている。他地区との交流や参加条件を検討し、より多くのチームで行いたいという感想が聞かれた。
体育事業	竜丘市民運動会 (期 日)10/9(日) 雨天中止 《スポーツ振興》	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民がスポーツを通じて親睦・交流を深めると共に、健康増進に繋がる機会を提供する。 ・誰もが参加でき、楽しめるよう種目内容を工夫する。 ・大会運営をスムーズに行い時間通りの進行に努める。 ・準備運動から整理体操まですべての競技種目について、昨年度の反省を踏まえより良い競技内容となるよう、スタッフ会、体育委員会にて審議、検討を行う。 ・積極的に中学生スタッフに協力してもらえるよう働きかけを行う。 ・飯田OIDE長姫高校生による一般参加型の種目提案を行った。 	残念ながら、2年連続の雨天中止となった。 当日に向け、各分館に於いては、選手集め、賞品準備、応援練習、競技練習等、積極的に取り組みを頂いた。 当日までの反省として、昨年度に比べてスムーズな運営ができたと思う。中学生スタッフについても多くのみなさんに参加いただき大変有り難かった。 選手集めが大変になってきているため今年は参加人数を減らしたが、採点種目の削減も検討していく必要がある。
体育事業	飯田市女性バレーボール大会 (期 日)11/13(日) 《スポーツ振興》	上郷小学校と上郷体育館で実施。 桐林分館が代表として出場。	今年度は桐林分館が代表として出場。 試合結果は東野、橋北に惜敗であったが、桐林分館を挙げての応援団が熱い声援を送り、声援では随一であった。
体育事業	飯田市ニュースポーツフェスティバル 《スポーツ振興》	11/6 囲碁ボール・大縄跳び 11/27 ワンふら大会	竜丘からは囲碁ボールと、最後の大会となったワンふら大会に出場し、好成績を残したチームがあった。 囲碁ボールやワンふらの普及が印象付けられた一方、大縄跳びへの参加が無く残念であった。子どもを中心に、呼びかけをしていきたい。

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

	事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
体育事業	冬季スポーツフェスティバル (期 日)12/11(日) (参加人数)170名 《スポーツ振興》	多くの方に気軽に参加してもらえるよう複数の種目を取り入れ、子どもから大人までスポーツを通して交流を深める。 ニュースポーツを取り入れる。 種目1:ワンバウンドふらば～るバレー 種目2:囲碁ボール 種目3:スポーツ吹き矢	今年度はワンふら、囲碁ボール、スポーツ吹き矢で実施した。参加者の皆さんも種目に慣れておりスムーズな運営ができた。ニュースポーツの推進を図るため、今後種目の変更も必要と思われる。
体育事業	緑ヶ丘中学校区 スポーツ推進委員 体育委員交流会 (期 日)2/12(日) (会 場)松尾小学校 《スポーツ振興》	(1)アイスブレイキング (2)ワンバウンドふらば～るバレーボール (3)情報交換会	普段は運営側で、実際にプレーする機会の少ない体育委員が6名参加し、他地区の体育委員と交流しながら、ワンフラを楽しみ、改めて体育事業の魅力を実感する機会となった。
体育事業	ニュースポーツの推進 《スポーツ振興》	ワンバウンドふらば～るバレーボール、囲碁ボール、ノルディックウォーク、グランドゴルフ、スポーツ吹き矢等	スポーツ大会等の種目とすることで、多くの人が親しめる機会とした。子どもから年配の方まで楽しめるニュースポーツの普及に努めていく。
広報事業	館報「たつおか」発行 (期日)年6回 (発行部数)2,200部	・紙面を通じて、地域の現況を伝達するとともに、記録としての役割を果たす。また、地域課題・生活課題について問題提起を行う。 ・読みやすく親しまれる館報づくりを行う。 ・館報「たつおか」333号～338号の発行を行う。 ・竜丘地域自治会のHPを活用した広報活動を推進する。 ・年間の発行回数の検討を行う。	・公民館活動や地域の取り組みなどをできる限りタイムリーに提供できるよう努めた。 ・HPに発行した館報を掲載している。今後も引き続き掲載していく。 ・現在は年6回奇数月末に発行している。過去の経過などを踏まえ、次年度からは年5回の発行とする。
民俗資料保存事業	民俗資料保存事業 (期 日)通年 《文化の伝承と充実》	地域の有形・無形の民俗資料を後世に伝えるための収集・保存活動を行うとともに、それらを広く公開していく。 重点事業 (1)木下紫水関連資料の整理・保存 (2)石造建造物調査活動(長野原地区) (3)現代の記録映像作成 (4)民俗資料館の維持管理及び資料館の今後についての検討 (5)収蔵品の虫干し(7月31日) (6)竜丘自由画保存顕彰委員会への参画	6月に松尾地区内の鍛冶屋さんの道具を譲り受けた。資料館に保存、機会を見て展示公開をしていく。地区民の心の拠り所となっていた民間信仰の、社やお堂の調査、それにまつわる事柄等の掘り起こしをし、文化祭で民間信仰にまつわる品々を展示した。多くの皆様から貴重なお話を伺うことができた。 11月に竜丘小学校3年生77名が民俗資料館を見学し、更に昔の道具を勉強させてほしいとの依頼を受け、石臼や、蓑、わらぐつ、ラッパ等に実際に触れ、体験し、大変喜んでもらった。蒐集・保存してきた物が光を浴びて、長年続けてきたことが報われたと感じた。
民俗資料保存事業	自由画保存顕彰委員会への参画 (期 日)通年 《文化の伝承と充実》	竜丘地区内には、大正期の自由教育や自由画教育に関する資料が数多く残されている。これらの資料などの適切な保存や顕彰が必要とされており、自由画保存顕彰委員会で調査、保存活動を行っており、この活動に協力する。	6月23日から7月5日まで、上郷の「アートハウス」で木下紫水の描いた「竜丘小学校の沿革誌」を展示。多くの皆様にご覧いただき、高い評価をいただいた。

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

	事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
育成事業	青少年クラブ支援 (期 日) 通年 《家庭等との連携》	青少年の健全な育成に資する、各種クラブを支援する。 募集チラシの配布等	青少年クラブ(野球、サッカー、バレーボール、卓球、柔道、剣道、詩吟、鈴岡太鼓など)の支援
育成事業	飛んでいるギフチョウを見る会 (期 日) 4/9(土) (会 場) ギフチョウ公園 (参加人数) 約40名 《家庭等との連携》	飯田昆虫友の会の事業に協力参加 竜丘の宝であるギフチョウについての学習を深めることが出来た。	ギフチョウを見る会のメンバーを中心に、実施出来た。竜丘の宝であるギフチョウについての学習を深めることが出来た。
育成事業	小学校はにわ作り支援 (期日) 5/12・13(木・金) (会場) 竜丘小学校 《家庭との連携》	小学校六年生を対象に、学校の古代史の学習(古墳、埴輪等)での埴輪づくりを指導。 古墳まつりにおいて、作成した埴輪の野焼きを実施。	地域の人材による埴輪づくり支援は、子どもに埴輪作り体験の機会を提供するばかりでなく、地域住民と子どもの交流の機会、地域と学校の連携の場となり開かれた学校運営・コミュニティースクールの一部に繋がって行ければよい。
育成事業	第9回竜丘古墳まつり (期 日) 6/12(日) (会 場) 塚原古墳群 (参加人数) 200名 《家庭・学校・地域との連携》	竜丘全体のまつりとして位置づけ、郷土竜丘の誇れる文化遺産を会場に、学びと交流を通して、古墳を広く知ってもらい、今後の有効活用、保存活動に繋げていく。 埴輪作り、埴輪の野焼き、勾玉作り、火おこし体験、教育委員会による展示、塚原古墳群めぐり、古代食コーナー、富本銭レプリカ作り、花の植え付け等。	回数を重ね、各種イベントの開催は円滑に行えた。埴輪の野焼き時幾つか破裂してしまうので、予備を幾つか作っておくとよいのではとの、意見があり対応について検討が必要である。 竜丘古墳の会の協力で、近隣の古墳めぐりを行い、子どもたちに様々な古墳があり、その名前や特色などを伝える機会とした。多方面の方の参加と協力を得ながら、無理をしないで長く続けられる事業としていきたい。
育成事業	水辺の楽校 (期 日) 9/11(日)他 (参加人数) 草刈り等作業 延べ237名 交流イベント 180名 《家庭・保育園・学校・地域との連携》	PTAと共催事業。 草刈り作業はPTAや各種団体と連携し子どもも参加し行う。(校内作業とも連携) 草刈り作業等年3回、交流イベントでは自然体験学習、顕微鏡での観察、ニジマス焼き、魚のつかみ取り、流しそうめんを実施。	草刈り作業からイベントまでをPTAと連携して行っている。自然体験が不足していると言われている子どもたちに、イベントでは水辺の生物や昆虫の学習を行い、楽しむだけでなく、自然、環境についての理解を深め、親しんでもらう機会とした。OID長姫高校の地域人教育で流しそうめんが鶯流峡復活プロジェクトの協力により実行された。 市を含めて関係者で有効な活用について引き続き検討していく必要がある。

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

	事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
育成事業	あいさつ運動 (期 日)統一行動 8/25 (会 場)各分館 《家庭・保育園・学校・ 地域との連携》	標語募集・選定、のぼり旗作成、あいさつ運動月間の周知、各分館であいさつ運動現地指導 (1) あいさつの大切さを見なおす機会とする (2) 大人と子どもがあいさつを通して安心安全な地域づくりを行う (3) できるだけ多くの団体と連携して実施する 分館ではもう一日行動日を設定し行動を実施。	8月25日を統一行動日とし、PTAの協力も得て地域全体であいさつ運動を展開した。また小学校の全校朝会で、あいさつについての話をする時間を設けていただくなど、小学校とも連携して取り組むことができた。実施した分館では、もう一日行動日を実施してもらった。分館からは、小学生だけでなく中学生のあいさつが非常に良かったとの感想が寄せられた。 日頃からあいさつを通して地域住民と子供のよりよい関係が構築されていくと犯罪防止にもつながっていく。のぼり旗の通年活用を検討していくことが必要である。
古墳の会	全体事業 《文化の伝承と充実》	・竜丘古墳の会総会 6月1日(水) 出席者:36名 ・古墳の会役員会 (4月25日、8月20日、9月29日、 1月17日) ・文化祭出展	保存・活用について、市民農園のトイレや駐車場等使用に関わる協議を行った。 来年度第10回を迎える古墳まつりに向けた内容の検討を行った。
古墳の会	学習部会事業 《文化の伝承と充実》	・竜丘小学校丘のみちしるべ探索 5月2日(月) 対象:竜丘小6年生58名 ・塚原二子塚古墳クイズラリー 6月12日(日)古墳まつり内 参加者:多数 ・学習会 10月21日(金) 「ハニワはいつ誰が作り始めたか？」 講師:今村文一氏、小林正春氏 参加者:35名	昨年に引き続き、古墳まつりで小学生を対象に塚原古墳群のクイズラリーを開催。多くの子どもが解説者の話に耳を傾けてくれた。古墳に親しみ、少しでも古墳のことを知ってもらえる機会となった。 学習会では埴輪の起源について、日本書紀を読み解く視点からと、考古学の視点からと、異なる見解を学び、考える機会とした。
古墳の会	塚原二子塚古墳公園 推進部会事業 《竜丘らしい原風景の 維持》	・花の会、カタバミの会活動 ・埴輪づくり指導 5月12・13日(木・金) 対象:竜丘小6年生58名 ・トンボ玉づくり 竜丘地区文化祭内11月5・6(土・ 日) 参加者:多数 ・除草作業 5月28日(62名)、8月20日(58名)、 10月15日(51名)	花の会を中心として塚原二子塚古墳周辺にサルビアなどを植栽、古墳まつりでも参加者に植栽を行ってもらい、親しむきっかけとした。 また、古墳公園・遊歩道整備委員会と協働で、除草作業を行った。 古墳まつりに向けた、小学校6年生の埴輪作りの指導では、ただ作るだけでなく、何のために作られたかななどの説明も行った。 埴輪作りやトンボ玉作りを通して、多く子どもが興味を持ち、古墳まつりでの様々な体験学習と共に古墳に親しむ機会となった。

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

	事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
古墳の会	調査・広報部会事業 《文化の伝承と充実》	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体の視察受け入れ 5月10日：羽場の昔を学ぶ会(10名) 5月29日：全国地名研究者大会(130名) 6月16日：上郷シニア大学の仲間(15名) 7月13日：飯田東中学校1年生(72名) 8月17日：駒ヶ根市より(19名) 9月8日：下伊那郡中学校社会科教諭研修会(50名) 12月8日：伊賀良地区との交流会(30名) ・2月28日：駄科高齢者クラブ楽生会(26名) ・中日新聞連載記事への協力 ・HP上での広報活動 ・教育委員会、古墳を語る会での案内活動 	<p>昨年度作成した竜丘の古墳マップ(パンフレット)を各方面に配布。国の史跡指定の影響もあり、地区外からの古墳案内の希望が増加し、古墳の会役員を中心に受け入れを行った。</p> <p>古墳を見学している来訪者も時折見受けられ、知名度の向上が感じられた。</p> <p>古墳の会役員を中心に見学受け入れを行っているが、案内者の養成が今後の課題となっている。</p>
自由画保存顕彰事業	調査保存研究事業 (期日)通年 《文化の伝承と充実》	<ul style="list-style-type: none"> ・原画を適切に保存し、後世に引き継ぐ。 ・竜丘の文化財として保存顕彰していくため、調査研究、学習活動を行うと同時に、広く地区内外へ周知し、顕彰活動を行う。 ・2月15日(水)原画の虫干し約10名参加 	<p>レプリカの吊りゴムが劣化したため、水引による吊り紐に変更し、活用に耐えるよう改修した。</p> <p>平成27年度に中性紙の箱に入れ、保存作業は一段落している。今後は虫干しを行いながら適切な保存に努める。基本構想にも謳われている、保存顕彰のための資料館的な物のあり方について、方法、場所、資金等含め、今後検討する必要がある。</p>
自由画保存顕彰事業	児童自由画レプリカ活用事業 (期日)通年 《文化の伝承と充実》	<ul style="list-style-type: none"> ・レプリカを作製し、常に小学校には全ての自由画が観賞できる環境を整える。 ・公民館でもレプリカを1セット用意し、様々なところで展示し、顕彰活動につなげる。 ・見学の受入 10月25日(火)教員OB・OG等10名 	<p>小学校では自由画考古室で常に児童自由画のレプリカが飾られ、子どもだけでなく保護者なども見られる環境が整っている。</p> <p>また昨年引き続き、各分館の文化祭など、飯田信用金庫に加え、アートハウスで展示を行い、多くの方に見てもらうことができました。</p>
自由画保存顕彰事業	自由教育 (期日)通年 《文化の伝承と充実》	自由画の背景にある自由教育の研究について検討する。	自由教育のなかに位置づけられた児童自由画について関心を持つ方がおり、講演会などを検討したが、実現できなかった。

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
<p>大人の学校 (期 日) 通年(原則月1回) (参加人数) 延べ約1410人 《生涯学習の推進》</p>	<p>60歳以上の住民を対象に、高齢者層のまとまりと生きがい、地域参画を図る。 運営委員中心にして、月1回の定例講座を開催する。テーマについては、生活を取り巻く様々な課題を取り上げる。クラブ活動など必要な生涯学習の支援を行う。 運営委員会・班長会・定例会(講座)・クラブ長会などを随時実施。</p>	<p>高齢化社会の地域において、益々重要な役割を果たしている。学習の成果を地域へ還元していくことを視野に入れて、小学校クラブの学習支援を行っている。 「もし大人の学校がなかったら」といった問いかけを運営委員会内で行うなど、活動の意義を確認しながら取り組んでいる。 今後も地域の中での大人の学校の役割を考えながら展開していく。 楽しむだけでなく、設立当初の理念を学び直す講座や、健康に関わる講座など、積極的な学習講座を展開している。</p>
<p>「好友会(ハオユウカイ)」 日本語教室 (期 日) 通年(月4回) (参加人数) 延べ480人</p>	<p>中国帰国者やベトナム等からの研修生を中心に、生活に困らない程度の日本語、習慣、文化の理解、情報交換、交流の場とする。 週1回日本語教室を開き、地域で暮らす仲間として互いの生活習慣や考え方を学びあう。 また月2回、新聞を発行し、地域への情報を発信、帰国者への情報伝達を行う。 講師: 樫野武司(桐林)、西川和憲(松尾新井)</p>	<p>このような支援事業は市内には少なく、貴重な機会となっている。 今後も日常の生活習慣、教育・保育、趣味、医療など広範にわたっての話題をとりあげている。 講師も高齢となり、事業の存続自体が課題となっている。後継者の発掘が急務となっている。</p>
<p>乳幼児教育支援 (0.1.2.3歳児学級) (期 日) 通年 《家庭等との連携》</p>	<p>0歳児、1歳児、2歳児、3歳児の親子を対象に、 育児不安を解消し、親の交流、親子のふれあいの場とし、また既存のサークル活動へ結びつける。 乳児の成長発達や育児法などについて学習する。 育児相談、情報相談の場とする。 講師に保健師、保育士資格者をお願いし育児法、子どもの接し方等について学ぶ。 親の個人相談等保健師に依頼する。</p>	<p>保健師・保育士とともに実施。子供の成長に合わせた遊びなどを行うとともに、同年代の子供同士、親同士の交流も深める。 また、子育てに関する悩みなどについても、保健師を中心に相談を受け、子育てを支援している。 20代～30代の女性が公民館に関わる貴重な機会であり、悩みや地域への思いなどを聞き、公民館活動につなげていきたい。</p>
<p>家庭教育講座 (期 日) 11/29(火) (会 場) 竜丘公民館 (参加人数) 130名 《家庭等との連携》</p>	<p>竜丘保育園との共催で行う。 親子での人形劇の観劇を通し、親子のふれあいを図るとともに、その後の保護者を対象に家庭教育についての講演会を行う。 劇団: 人形劇団むすび座 演目: 大きなかぶ・泣きむし大男 講演: 園長先生からのお話</p>	<p>竜丘保育園との合同で開催。園児やその保護者、未就園児の親子に人形劇を観劇することで、異年齢交流や人形劇のまちづくりにつながる機会となった。 観劇後の講演は内容やタイミングを検討するなど充実させ、今後も家庭教育事業を継続していく必要がある。</p>
<p>小学校クラブ活動支援事業 (期 日) 5～7月 《家庭等との連携》</p>	<p>小学校の17のクラブ活動の指導を大人の学校を中心に地域の講師(地区の匠)が行った。 全10時間の指導とクラブ発表会を支援した。</p>	<p>社会教育団体の地域貢献と、世代間交流の意味から重要な事業となっている。コミュニティスクールをきっかけとして、地域の子どもを地域で育てる活動の中核事業として充実させていきたい。</p>

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
Cブロック公民館情報交換会 (期 日)6/19(日) (会 場)竜丘公民館 《生涯学習の推進》	文化、体育、広報、育成の5地区の委員が集まり、それぞれの分科会に分かれ研修や情報交換を行った。分科会は①竜丘地区古墳めぐり、②クップ・ガラッキー、③話題提供から作る館報。であった。	この情報交換会で学ぶことが多くあるため、継続して行っていく。
JICAへの協力 (期 日)8/24(水)	JICAのプログラムPLSD研修を受け入れ。自治や公民館についての講義、現地研修等を実施。竜丘公民館本館での受け入れに加え、駄科分館での受け入れも継続され4年目となった。	竜丘をはじめとした飯田市の公民館活動が、途上国を中心に注目を集めている。住民交流や地域自治、学習機関としての公民館の有用性が認められ、「公民館の輸出」も行われている。駄科分館での視察受け入れは、JICAから高評価を受け、PLSD研修に組みこまれている。PLSD研修を理解するうえで貴重な現場となっている。この事業を通して、竜丘地域としても公民館活動を見つめなおすよい機会としたい。
緑ヶ丘中学校区少年少女スポーツ団体支援事業 (期 日)5/19(木) (参加人数)約30名 《家庭等との連携》	応急処置講習会を、飯田市スポーツ推進委員との共催で実施。内容:救命処置(AED)。骨折への対応、熱中症の予防・対応、止血処置他	青少年スポーツ活動で起こりうる怪我への対応やAEDの使用方法等について講習会を実施した。今年度は一年間の活動に備えてもらえるよう、年度当初に実施したが、竜丘からの参加者は3名であった。スポーツ団体を運営する側としての責任感を持ち、より多くの関係者の出席をよびかける必要がある。
飯田市公民館大会参加 (期 日)2/19(日) 《生涯学習の推進》	第54回飯田市公民館記念大会に参加 分科会のテーマは「未来へのバトンパス～世代間のつながりを深める～」 「育もう！いきいきとした子ども」 「次世代に想いをつなぐ地域文化」 「高齢期を支え合いと生きがいを持って」 「私と地域にとっての公民館」 「ムトスの心で、地域に活動の輪を広げよう」	竜丘からは13名が参加。基調講演では藤山浩氏による「地元を創り直す～田園回帰の時代～」の講演を聞き、その後、分科会では共通のテーマを基に、他地区の事例を聞くと共に、情報交換を行った。公民館活動を振り返る機会となった。
飯田市コーラスコンクール参加 (期 日)2/26(日) 《生涯学習の推進》	飯田市コーラスコンクールへ竜丘コーラスが参加	竜丘住民が中心である社会教育関係団体が参加。生涯学習の面からも、今後も支援していく。
飯田中央図書館竜丘分館事業 (期 日)通年	図書館の事業を補助 お楽しみ会、クリスマス会、かるた会他	図書分館の利用率は飯田市内でもトップクラスであり、今後も図書館の活動を支援していく。
塚原二子塚 古墳公園 白井川秘境遊歩道整備委員会への参画 《文化の伝承と充実》	古墳整備作業年3回実施 5月28日(62名)、8月20日(58名)、10月15日(51名)	古墳公園園化を視野に入れ、古墳の会の活動を通して、引き続き参画していく。
竜丘放課後子ども教室 (期 日)毎週水曜 (会 場)竜丘小学校 竜丘公民館 (参加人数)延べ800人 《家庭等との連携》	リーダー研修、集団行動訓練、野球、囲碁ボール、スポーツ吹き矢、ドッチビー、剣玉、おしなご、工作、太鼓、自主学習、書道、英語、詩吟、お菓子作り、手話 等	子供たちの社会性や想像力を育てる点で、重要な事業である。コミュニティスクールの一環として、子どもの育ちと地域の関わりを大切にして、メニューの工夫や新たなスタッフ募集など、充実させていく。

平成28年度 竜丘公民館 事業報告

事業名《基本構想》	目的・内容	反省・報告
<p>視察研修 (期 日) 9/25(日) (行き先) 築瀬双子塚古墳・富岡製糸場 《生涯学習の推進》</p>	<p>公民館委員として、他地域の活動を体験・学習することを通して、地域課題の解決に向けた取り組みを考えるとともに、地域を担っていく資質の向上に努める。 群馬県安中市築瀬双子塚古墳・・・飯田の古墳とのつながり 富岡製糸場・・・世界遺産</p>	<p>今年度の研修計画は育成委員会によって行われた。 平成28年3月2日に行われた古墳の会の学習会で、群馬県埋蔵文化財調査事業団理事の右島氏から、群馬県にある古墳と飯田の古墳との関連についてお話いただいたことをきっかけに、講演に出てきた現地を訪れ、学習を深める機会となった。 長野県考古学会長の小林正春氏にも同行いただき、安中市の学芸員の方からも説明をいただくなど、普段は除草作業を行う古墳について、地域資源としての理解を深めた。 また、世界遺産となった富岡製糸場では、かつて竜丘でも養蚕業が盛んであり、往時をしのびながら委員間の懇親を深めた。</p>
<p>丘のみちしるべ改訂事業 《文化の伝承と充実》</p>	<p>編集委員さんが得た知識を伝える展示や学習会などを開催し、今後の活用や展開を図る。 11/5～6: 加藤守孝氏による竜丘で見られる野鳥の展示 10/30、2/17: 市民大学講座で地元企業人による講演</p>	<p>第4章で産業を取り上げていたことから、市民大学講座では中学生をメインターゲットとした講演会を実施。文化祭では第3章で野鳥を担当した加藤氏が撮りためた写真を展示し、どのような鳥が見られるのかを知る機会とした。 まだまだ今後の活用や展開への工夫が必要であるが、コミュニティスクールが始まることを一つの軸として、より親しみ活用されるよう検討していきたい。</p>
<p>地域人教育事業 《家庭・保育園・学校・地域との連携》</p>	<p>飯田OIDE長姫高校商業科「地域人教育」実施 (高校・松本大学・市のパートナーシップ協定による) 8名の高校生が竜丘で活動した。 ・竜丘散策、意見交換、アンケート ・9/11水辺の楽校での流しそうめん(鷲流峡復活PJによるサポート)約80名の子どもが参加 ・10/9運動会種目の企画と運営(雨天中止) ・12/10小学生を対象としたクリスマス会の実施。約100名の児童が参加。</p>	<p>高校生の生きる力を育むと共に、人材サイクル構築の一環として取り組まれている。地域にとっても高校生にとってもより豊かな暮らしにつながる機会としたい。 多くの方々の協力を得て実施した流しそうめん「子どもが笑顔になれば親(大人)も笑顔になる」と気づき、運動会でも子どもを対象にした種目を体育委員長の助言を得ながら企画。自分たちの力だけでやりたいと企画したクリスマス会では、それぞれが工夫し考えながら運営。最後には「親(大人)が笑顔になれば、地域が明るくなる」と話してくれた。 以下南信州新聞の記事より 伊原由菜さん「自分たちにできることには限りがある。そんな中でも地域の人にありがとうと声をかけていただき嬉しかった。色々な人の協力があってはじめて何かができる。自分たちもその輪に積極的に加わっていききたい。」</p>